

〈分類1〉 学校教育の充実

学校教育を「ひとづくり」の基礎と位置づけ、児童・生徒が快適に学ぶことができる教育環境を整えるとともに、社会の動静や子どもたちの実態を把握し、一人ひとりの個性や可能性を最大限に生かし生きる力と夢を育む教育を目指します。

【施策】

- ・快適に学ぶことができる教育環境の整備・・・・・・・・・・P13
- ・豊かな人間性と社会性をはぐくむ教育内容の充実・・・・・・・・P16
- ・地域に開かれた学校の実現・・・・・・・・・・・・・・・・・・P17
- ・快適な教育基盤の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・P18
- 総括的評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・P19

【施策】

◇ 快適に学ぶことができる教育環境の整備

【主な事業】

(1) 五戸小学校改築事業

点検	概要	五戸小学校の校舎及び体育館の老朽化と耐震化対策のため、校舎、体育館の改築工事を行う。完成は、五戸中学校学区の小学校統合にあわせて平成25年度末とする。 平成23年度に実施設計を実施し、24・25年度に改築工事を実施する。		
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎改築工事進捗率 44% ・体育館改築工事進捗率 0.7% 	実績	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎改築工事進捗率 44% ・体育館改築工事進捗率 0.7%
評価	成果	改築工事は、計画どおり平成24年度の改築工事が実施された。		
	課題等	外構工事に併せて敷地内の改修が必要な箇所も改修するようにする。		

(2) 学校施設維持管理事業

点検	概要	児童生徒が安全で快適な環境で教育活動ができるように、各学校からの要望により、学校施設の改修、修繕を行う。		
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校の緊急に必要となる修繕料を予算措置 	実績	<ul style="list-style-type: none"> ・修繕料の予算の範囲内で修繕を実施 ・予算補正により、切谷内小学校外壁修繕工事を実施
評価	成果	教育委員による学校訪問により、各学校の要望内容を把握している。		
	課題等	学校施設維持管理については、事業費の大きい工事の十分な予算の確保ができないために、学校からの要望に対して迅速で十分な対応ができていない状況となっているので、ある程度の規模の改修等については、年次計画を作成し、計画的な予算措置を財政当局に要望する必要がある。		

(3) 小学校統合事業

点検	概要	<p>町内の小学校において、児童数の減少により複式学級が複数出てきたため、「五戸町立小学校統合計画」を策定し、学校統合により複式学級を解消し、より良い教育環境を実現する。</p> <p>石沢小学校、中市小学校、又重小学校（倉石中学校学区）を平成25年4月に統合し、倉石小学校とする。</p> <p>五戸小学校に蛸川小学校、豊間内小学校、南小学校（五戸中学校学区）を平成26年4月に統合する。</p>	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・倉石中学校学区小学校統合準備委員会の開催 ・倉石中学校学区3小学校の閉校式の開催 ・五戸中学校学区小学校統合準備委員会の開催 	<p>実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倉石中学校学区小学校統合準備委員会の開催し、協議を全て終了した。 ・倉石中学校学区3小学校の閉校式を開催 ・五戸中学校学区小学校統合準備委員会を開催
評価	成果	<p>倉石中学校学区の小学校統合では、統合に関する統合準備委員会の協議及び閉校式が終了したことにより、より良い教育環境の構築が計画どおり進められた。</p>	
	課題等	<p>統合に伴うスクールバスがコミュニティバスを利用することになったため、児童の乗降の間違いないように十分な指導をする必要がある。</p>	

(4) 特別支援教育支援員配置事業

点検	概要	<p>様々な障害を持つ児童生徒に対して、学校生活上の介助や学習活動の支援などを行う特別支援教育支援員を必要な学校に配置し、児童生徒の教育の充実を図る。</p>	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校3校、中学校1校に合わせ3人の支援員を配置 	<p>実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・切谷内小学校、上市川小学校、又重小学校及び五戸中学校へ各1人の計4人の支援員を配置した。
評価	成果	<p>特別支援教育支援員を必要な学校に配置することで、教員の負担を軽減することができた。</p>	
	課題等	<p>特別支援教育支援員は、現状では、必要最小限の配置となっているが、教育環境の充実と教員の負担を軽減するためには、できるだけ多くの学校への配置を目指す必要がある。</p>	

(5) 学校支援地域本部事業

点検	概要	学校の要望に応じて、教育活動を地域住民のボランティア活動で支援する体制をつくり、学校で手が回らない部分を手伝うことで教育環境の整備や教員・地域住民が子どもたちと向き合う時間を増やし、地域の教育力の向上を図る。	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校2校、中学校1校に学校支援センターを設置 ・ボランティア活動日数 400日 	<p>実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五戸小学校、石沢小学校及び川内中学校の3校に学校支援センターを設置し、家庭科授業補助や図書室の整理など学校の要望に沿って地域住民が、ボランティアで支援を行った。 ・ボランティア活動日数 373日
評価	成果	地域住民のボランティアにより、学校の教育環境の向上と教師が児童生徒に向き合う時間を増やすことができた。	
	課題等	学校支援地域本部事業に取り組んでいない学校へもPRをして、多くの学校で実施していくことが必要である。	

【施策】

◇ 豊かな人間性と社会性をはぐくむ教育内容の充実

【主な事業】

(1) 語学指導外国青年招致事業

点 検	概 要	国の語学指導外国青年招致事業（JETプログラム）を活用して、語学指導助手（ALT）となる外国青年を招致し、小・中学校で英語授業の補助をしてもらうことで英語教育の充実を図る。また、国際理解教育の補助をすることで諸外国との相互理解を増進する。	
	計 画	実 績	<ul style="list-style-type: none"> ・人数 3人 ・配置校 12校 ・学校教育以外での英語指導の実施
評 価	成 果	外国青年によるALTの配置により、小中学生が生徒の英語に触れることで英語教育の充実を図ることができた。 また、ALTが公民館講座の英語講師として講座を行うことで、町民との交流も図られた。	
	課 題 等	ALTは、学校統合により平成26年度までに小学校が5校減少するため、現状の3人体制を維持しながら、より効果的な活用の検討が必要である。	

【施策】

◇ 地域に開かれた学校の実現

【主な事業】

(1) 学校評議員事業

点 検	概 要	学校運営に関し、保護者や地域住民の意見を反映するとともに、協力を得ながら子どもたちの健やかな成長を担うことができる学校運営を行うため、各学校に5名以内の学校評議員を置き、学校運営に参画してもらう。		
	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校評議員を委嘱 ・学校評議員会議開催回数 24回 ・学校評議員の意見の反映数 24件 	実 績	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校に学校から推薦された3～5名の方を学校評議員として委嘱した。 ・学校評議員会議開催回数 22回 ・学校評議員の意見の反映数 20件
評 価	成 果	各学校では、校評議委員から意見を聴取する会議を1～3回開催し、出された意見についても各学校で概ね2件は学校運営に反映しており、地域に開かれた学校を目指す運営が行われている。		
	課 題 等	学校評議委員から出された意見により改善されたことなどを、各学校から学区住民に知らせて、学校が地域に開かれていることを分かってもらうことが重要なので、その方法を検討する必要がある。		

【施策】

◇ 快適な教育基盤の充実

【主な事業】

(1) 奨学資金貸付事業

点検	概要	五戸町出身の学生及び生徒で学習能力があるにもかかわらず、経済的理由により就学が困難な者に対して、学資を無利子で貸与して人材の育成を図る。償還期間は、1年据置後から貸与機関の2倍の期間とする。	
	計画	実績	<ul style="list-style-type: none"> ・新規貸与者数 高校生 3人 大学生等 25人 ・償還金償還率（現年度分） 95%
評価	成果	新たな奨学資金の貸付は、予算の範囲内で申込者全員に貸し付けることができた。	
	課題等	奨学資金償還金の未納者が有り、未納額は、全体では減少傾向となっているものの長期間にわたって未納の人もいる。そのため、未納者と連絡を密にとりながら、未納者の経済状況などの把握をして返済に向けた取組みを継続的に行い、未納額の減少に努めることが必要である。	

(2) スクールバス事業

点検	概要	学校統合などにより、遠方から通学する児童生徒の通学手段として、業者委託により学校と該当地区の間に通学のためのスクールバスを運行する。	
	計画	実績	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールバス運行学校 南小学校、中市小学校、又重小学校、五戸中学校、倉石中学校 ・スクールバス運行学校 南小学校、中市小学校、又重小学校、五戸中学校、倉石中学校
評価	成果	計画どおりスクールバスを運行することで、遠隔地の児童生徒の通学の足を確保した。	
	課題等	スクールバス事業は、平成25年度から五戸町コミュニティバス事業の実施に合わせて、スクールバスを取りやめコミュニティバスを通学に利用することになっているため、児童生徒が利用しやすい運行となるように検討してゆく必要がある。	

○ 総括的評価・・・学校教育の充実

◆ **快適に学ぶことができる教育環境の整備**としては、ハード事業である五戸小学校改築事業は、国の補助金を受け、計画どおり実施できたが、学校施設の維持管理のための改修・修繕は、特に緊急性の高いものとして最小限の範囲でしか予算が措置されなかったため、ある程度の経費のかかる改修工事等については、年次計画を作成して財政当局へ要望していく必要がある。

また、ソフト事業では、2地区の小学校統合に向けた関係者の調整が進み、よりよい形での統合が実施できる見込となった。その他に、特別支援教育支援員の配置及び学校支援地域本部の設置により、学校における教師の負担を軽減することで、教師の児童に向き合う時間の確保に効果があったが、実施した学校が2事業をあわせても12校中7校にとどまっていることから、特別支援教育支援員の全校配置のための予算の確保と学校支援地域本部の設置に向けた働きかけを進める必要がある。

◆ **豊かな人間性と社会性をはぐくむ教育内容の充実**としては、外国青年のALTの活用で、五戸町の子どもたちの国際感覚の育成が図られていることから引き続き事業を推進していく必要がある。

◆ **地域に開かれた学校の実現及び快適な境域基盤の充実**については、現状の事業をこれまでどおり実施しながら、より効率的な改善を目指していく必要がある。

◆ **快適な教育基盤の充実**としては、奨学資金の貸し付けにより経済的な理由での進学をあきらめることがないようにするための重要な事業ではあるが、償還金の滞納対策に力を入れる必要がある。

〈分類2〉 社会教育の振興

生涯学習社会形成に向け、町民一人ひとりの学習ニーズに対応できる学習環境の整備を図るとともに、「主体的に社会参加する町民」を目指し、総合的な社会教育の推進に努めます。

【施策】

- ・生涯学習に資する人材の育成・・・・・・・・・・・・・・・・P25
- ・多様なニーズに対応し得る生涯学習の体制づくり・・・・・・・・P26
- ・利用しやすい社会教育施設の整備・・・・・・・・・・・・・・・・P28
- 総括的評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P29

【施策】

◇ 生涯学習に資する人材の育成

【主な事業】

(1) ボランティア活動支援事業

点 検	概 要	町内の各分野における特技を持った人材を生かし、町民の社会参加の場を提供するとともに、地域ぐるみの教育を目指した「学校等支援ボランティアバンク」にボランティアで活動する人をリストに登録し、学校等からの求めに応じて人材を紹介する。 登録の更新は、2年ごとに行う。		
	計 画	・登録人数 50人 ・登録件数 23件 ・活動件数 2か所	実 績	・登録人数 44人 ・登録件数 22件 ・活動件数 なし
評 価	成 果	平成24年度には支援活動の活動実績はなかったが、これまでは利用者からは好評価を得ており、リストアップしておくことで地域の人材を把握しておくことができた。		
	課 題 等	活動をする新規の登録者が少ないため、年々登録者の高齢化に伴い登録人数が減少しているため、引き継いでもらったり、新規の登録者を増やしていく必要がある。また、ボランティアの依頼が少ないことによって登録者のモチベーションが下がり、登録の更新をしない場合もあり、利用件数を増やすために他の事業との連携や活用が必要である。		

【施策】

◇ 多様なニーズに対応し得る生涯学習の体制づくり

【主な事業】

(1) 町民大学講座事業

点検	概要	生涯学習の一環として町民へ学習機会を提供することを目的に、町内を5地区に分け、年間を通じて各分野の講師を招いて重に講演による合同講座及び単独講座を行う。また、施設見学などの移動講座を行う。	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・開催講座数 10講座 ・開催回数 14回 ・受講者数 延べ500人 	実績 <ul style="list-style-type: none"> ・開催回数 10講座 ・開催回数 13回 ・受講者数 延べ483人
評価	成果	講座では、受講生に対し、多様な分野からの講師による講義や、博物館等の様々な施設を見学することで学習の機会を提供することができた。	
	課題等	講座をより多くの町民に受講してもらうため、町民の生涯学習に対してのニーズの把握や、町民への広報など検討する必要がある。また、町のケーブルテレビでの放映も可能かどうか検討する必要がある。	

(2) 公民館講座事業

点検	概要	町民が生涯を通して生きがいのある充実した生活を送ることができるよう、公民館において町民一人ひとりの学習ニーズに対応する多種多様な講座で、重に受講者が作成などを行う内容で学びの場を提供する。 講座は、年間を通して行う普通講座、2～3か月の期間で行う短期講座、川内・浅田・倉石の3地区の施設に出向いて行う移動講座がある。	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・参加延べ人数 普通講座 2, 140人 短期講座 72人 移動講座 90人 	実績 <ul style="list-style-type: none"> ・参加延べ人数 普通講座 985人 (旬を楽しむ手料理、手作り小物教室等7講座) 短期講座 52人 (着物着付けの1講座) 移動講座 85人 (PPバンドかご作りの1講座)
評価	成果	公民館講座は、幅広い年代の町民が受講しており、普通・短期・移動の3種類の多様な講座を開講することにより受講者のニーズに応えることができた。	
	課題等	公民館講座では、各講座の修了者を含めた地域の人材を講師として活用していく必要がある。普通講座の新規受講者の加入を促進するため、町民の学習ニーズを調査し新たな講座の開講の必要性を検討する必要がある。	

(3) 公民館情報紙発行事業

点 検	概 要	公民館事業への理解と関心を深めるために、公民館事業の情報紙「おんこ」を作成し、自治会を通して毎戸配付や回覧をすることで、公民館の利用者数の増加を目指す。	
	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・「おんこ」の発行 ・年間利用者数 50,000人 ・年間利用件数 2,500件 	実 績 <ul style="list-style-type: none"> ・年間5回の「おんこ」を発行した。 ・年間利用者数 61,361人 ・年間利用件数 2,910件
評 価	成 果	公民館情報紙「おんこ」を発行することで、公民館事業等を住民へ効果的にお知らせすることで、公民館利用者の利便性を高めることができた。	
	課 題 等	「おんこ」に代わるものとして、ケーブルテレビやインターネットのホームページがあるが、現状では、広く町民が視聴や閲覧をする状況にはないため、「おんこ」の内容の充実を図り情報提供していく必要がある。	

【施策】

◇ 利用しやすい社会教育施設の整備

【主な事業】

(1) 移動図書館事業

点 検	概 要	図書館から遠隔地のため、図書館に行って利用しにくい地域の人たちのために、自動車に図書を積み込んで各地区と小学校を巡回して図書の貸し出しをする。		
	計 画	実 績	<ul style="list-style-type: none"> ・地域巡回貸出冊数 1, 600冊 ・学校巡回貸出冊数 7, 100冊 <ul style="list-style-type: none"> ・月1回5箇所での地域巡回及び小学校8校での巡回を実施した。 ・地域巡回貸出冊数 1, 272冊 ・学校巡回貸出冊数 7, 396冊 	
評 価	成 果	移動図書館により、遠隔地域への図書貸出サービスが展開できた。また、地域を定期的に巡回することで、読書の推進が図られている。		
	課 題 等	学校巡回では、平成26年度までに学校統合で小学校が5校減少するため、今後の実施方法の変更を含めて検討する必要がある。また、地域巡回では、共働きや高齢者が増えているため、利用者の拡大が難しくなっており、貸出冊数が計画の8割程度となっている。今後は、より利用しやすくするための巡回場所や日時等の見直が必要である。		

○ 総括的評価・・・・・・・・社会教育の振興

- ◆ 生涯学習に資する人材の育成としては、ボランティア活動支援事業を実施しているが、ボランティアの依頼がほとんどないことから、事業のPRを進める必要がある。
- ◆ 多様なニーズに対応し得る生涯学習の体制づくりとしては、生涯学習の拠点である公民館を中心に、町民大学講座、公民館講座を開催しており、あわせて延べ1,600人以上の町民が受講しているが、講座により受講者数に差があることから学習ニーズの把握をするとともに、聴講したくても会場での受講ができない町民のために、将来的には、ケーブルテレビを活用して各家庭での聴講を可能にすることの検討も必要がある。
- ◆ 利用しやすい社会教育施設の整備としては、移動図書館が図書館に訪れることが難しい町民でも図書が借りれるように車で巡回しているが、より一層の利用者の増加のために実施方法の検証をする必要がある。

〈分類3〉 スポーツの振興

現在あるスポーツ施設の利便性を高めるとともに、町民のニーズを把握し、多様で参加しやすいイベントの実施や老若男女の誰もが生涯を通じて気軽にスポーツを楽しみ、活力と感動を生み出す環境づくりを進めます。

【施策】

- ・利用しやすいスポーツ施設の整備・・・・・・・・・・P5
- ・誰もが気軽に参加できるスポーツ環境づくり・・・・・・・・P6
- ・町全体で取り組むスポーツ振興・・・・・・・・・・P8
- 総括的評価・・・・・・・・・・P11

【施策】

◇ 利用しやすいスポーツ施設の整備

【主な事業】

(1) スポーツ施設の管理事業

点 検	概 要	<p>ひばり野公園（陸上競技場、野球場、サッカー場、テニスコート、プール）、屋内トレーニングセンター、スポーツ交流センター及び倉石スポーツセンターの施設を町民のスポーツ活動の場として提供しており、町民が利用しやすい施設とするために、施設管理を指定管理者に委託している。また、利用者が安全に安心して利用できるように、施設の不良箇所の修繕を行う。</p>	
	計 画	実 績	<p>・スポーツ交流センターの屋根及び煙突改修工事</p> <p>・施設利用者数</p> <p>ひばり野公園 53,000 人</p> <p>屋内トレーニングセンター 35,000 人</p> <p>スポーツ交流センター 9,170 人</p> <p>倉石スポーツセンター 10,700 人</p>
評 価	成 果	<p>ひばり野公園、屋内トレーニングセンター、スポーツ交流センター及び倉石スポーツセンターは、(財)五戸町スポーツ振興公社に指定管理委託（平成21年度～25年度）をすることで、経費の節減ときめ細かな施設の管理及び利用者の利便性の向上を図ることができた。</p> <p>また、予定した修繕工事を実施したほかに急きよ必要になったバスケットコートラインの修正工事も実施し、施設の良好な管理ができた。</p> <p>施設利用者数については、ほとんどの施設で計画を上回ることができた。</p>	
	課 題 等	<p>ひばり野運動公園は開園から30年以上が経過し、各施設や設備の老朽化が進んでおり、これまでも補修工事を行ってきたが、大規模改修の必要な箇所がある。スポーツ交流センター、倉石スポーツセンターも老朽化が進んでいるが、財政上から大規模な改修ができないため、計画的な財政措置が必要である。</p> <p>屋内トレーニングセンターは利用者の利便性向上としてトイレやシャワー室等の衛生施設の増設が望まれている。</p>	

【施策】

◇ 誰もが気軽に参加できるスポーツ環境づくり

【主な事業】

(1) 町民登山・歩こう会事業

点検	概要	町民を対象にした県内及び隣県での日帰り登山及びハイキングをすることで、自然と触れ合いながら町民の健康増進とスポーツへ取り組むきっかけとしてもらう。		
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・登山参加者 50人 ・歩こう会参加者 100人 	実績	<ul style="list-style-type: none"> ・登山参加者(岩木山) 43人 ・歩こう会参加者(秋田八幡平) 92人
評価	成果	町民登山、歩こう会とも、ほぼ計画どおりの参加者数となり、個人では気軽にはできない登山に参加することで町民の健康増進が図られた。参加者からは、町民同士の親睦も図られることから、参加してよかったという声が多く聞かれた。		
	課題等	町民登山は、年々参加者数が減少してきているため、より参加しやすい内容にするなどの検討が必要である。歩こう会は、毎年、近場の県外で実施しており朝早く出発し暗くなってからの帰りとなっているが、参加者からは毎年継続して開催してほしいとの声が多い。しかし、より多くの町民が参加しやすいようにするため、町委託バス等の利用制限も考慮し、県外でなくても町内の豊かな自然を活用して、年に複数回の開催にするなど内容の変更を検討する必要がある。		

(2) スポーツ推進委員事業

点検	概要	町のスポーツの推進のため、熱意と能力のある住民をスポーツ推進委員として町教育委員会が委嘱し、社会体育事業の企画・運営をしてもらう。また、その他の団体のスポーツ行事・事業に協力及び指導助言をしてもらう。		
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・町民運動会・登山・歩こう会の企画運営への参画 ・老人スポーツ大会への協力 ・委員の行事等への参加者数 100人(延べ) 	実績	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進員は、町民運動会・登山・歩こう会の企画運営に参画した。 ・老人スポーツ大会への協力をした。 ・委員の行事等への参加者数 78人
評価	成果	スポーツ推進委員は、専門的な知識と行動力で町の事業に参画するなどスポーツの振興に寄与した。		
	課題等	スポーツ推進委員は、事業参加者の安全、けが・発病者の対処等(救急法、心肺蘇生法、AED講習会など)を万全にできるよう、専門的知識、技術の向上が必要であるため、県などで開催する研修会、講習会等により多くのスポーツ推進委員に参加してもらえようにする必要がある。		

(3) 生涯スポーツ振興事業等委託事業

点 検	概 要	「町民一人1スポーツ」を奨励することで、心身ともに健康で豊かな生活を送るために生涯スポーツを推進し、誰もが気軽に参加できる各種スポーツ大会や運動教室の実施についての企画、運営を(財)五戸町スポーツ振興公社に委託している。	
	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・各種スポーツ大会及び教室への参加者数 2,500人 ・開催スポーツ大会数 8回 ・開催教室数 4回 	実 績 <ul style="list-style-type: none"> ・各種スポーツ大会及び教室への参加者数 3,472人 ・開催スポーツ大会数 10回 ・開催教室数 4回
評 価	成 果	生涯スポーツ振興事業等の委託では、行政では手が回らない部分を委託することで、多彩な大会等が実施され、多数の町民がスポーツに親しむことができた。予定された回数より実績が多かったこともあり、参加者が計画よりだいぶ多かった。	
	課 題 等	委託じぎょうとして高齢者を対象とした健康づくりを目的としたレクリエーションや各種教室など、もっと気軽にスポーツに参加できる環境づくりが必要である。	

【施策】

◇ 町全体で取り組むスポーツ振興

【主な事業】

(1) 県民駅伝競走大会五戸町実行委員会事業

点 検	概 要	毎年9月第1日曜日に県下全市町村が参加して開催される県民駅伝競走大会に参加するために、町実行委員会を組織し運営費として補助金を交付するとともに、事務局を担当し運営を支援する。	
	計 画	実 績	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会の実施内容 選手選考、練習スケジュールの作成と実施、試走会、大会当日のサポート ・練習会等回数 40回 ・練習会参加者数 35人
評 価	成 果	実行委員は、陸上の知識のある人材が長年メンバーとなっていることから、通年での練習を行うなど継続的に大会に向けた取り組みができた。	
	課 題 等	新たに実行委員に加わる人材が少ないため、町陸上競技協会と協力して人材の育成や勧誘が必要である。	

(2) スポーツ少年団本部事業

点 検	概 要	スポーツを通じて少年・少女の心身を鍛錬するために、町内のスポーツ少年団を育成指導する、五戸町スポーツ少年団本部に運営費及び事業費に対する補助金を交付するとともに、事務局を担当し運営を支援する。	
	計 画	実 績	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金の交付 ・登録指導者団員数 450人 ・各種大会参加延べ人数400人
評 価	成 果	スポーツ少年団本部に加入している単位のスポーツ少年団は、競技大会への補助金の交付や活動助成金の交付を受けて、活発な活動ができた。	
	課 題 等	スポーツ少年団本部は、町内の学校統合等により、単位団の在り方も変わっていくと思われるため、年に1回程度は指導者・団員が参加する交流会を開催し、情報交換をもちながら運営及び事業についての見直しの必要がある。	

(3) スポーツクラブ育成事業

点検	概要	<p>幼児から一般まで幅広い年齢層で、多様な競技を選択できるように地域に根ざした、総合型地域スポーツクラブの育成と、スポーツを通じた町の活性化を目指し、スポーツクラブを運営している（財）五戸町スポーツ振興公社へ、スポーツクラブ強化事業、指導者育成事業、スポーツ教室開催事業分として補助金を交付する。</p> <p>・スポーツクラブは、サッカー、野球、バスケットボール、ソフトテニス、陸上の5種目となっているが、陸上は、会員がいないため、休止状態となっている。</p>		
	計画	<p>・補助金の交付</p> <p>・クラブ強化事業 14回</p> <p>・指導者育成事業 5回</p> <p>・スポーツ教室・イベント事業4回</p> <p>・広報活動 2回</p>	実績	<p>・クラブを運営しているスポーツ振興公社へ補助金を交付した。</p> <p>・クラブ強化事業 13回</p> <p>・指導者育成事業 4回</p> <p>・スポーツ教室・イベント事業 4回</p> <p>・広報活動 2回</p>
評価	成果	<p>スポーツクラブ育成事業は、運営組織の（財）五戸町スポーツ振興公社に町が補助金を交付することで、スポーツ振興公社がクラブ強化事業、指導者育成事業、スポーツ教室開催及びイベント事業、広報活動の4事業を展開し、ほぼ計画どおりの実績となり各クラブの強化とボランティア指導者の育成を図った。</p>		
	課題等	<p>スポーツクラブは、陸上競技クラブの会員確保と現クラブ員や指導者の増員対策や事業の充実と拡大を図っていくため、運営主体のスポーツ振興公社と協議しながら進めることが必要である。</p>		

(4) スポーツ大会出場祝金事業

点検	概要	<p>小・中学生のスポーツ競技力の向上と支援を目的に、予選を経て東北大会及び全国大会に出場する小・中学生の保護者に対し、出場に際する負担を軽減するため、東北大会出場者へは10,000円、全国大会出場者へは20,000円（合わせた限度額は20,000円）祝い金を支給する。</p>		
	計画	<p>・東北大会 10人</p> <p>・全国大会 1人</p>	実績	<p>・東北大会 51人</p> <p>・全国大会 1人</p>
評価	成果	<p>出場祝金を支給することで、子どもたちが努力して勝ち取った、上位の大会へ出場させるための保護者の負担を軽減することができた。</p>		
	課題等	<p>出場祝金は、団体競技の場合には支給する人数が多く当初予算では把握が難しく補正予算対応となることから、申請を受けてから支給日まで日数がかかる場合が多い。早期に支給できるよう前年度実績並みに当初予算に計上できるよう、財政担当課への要望が必要である。</p>		

(5) 町民運動会事業

点 検	概要	町民の健康増進や親睦を図るために、全町内で自治会または地区ごとにチームを作り、子どもから老人までが参加できる競技で1日楽しむ、全町をあげたスポーツイベントとなっている。	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・参加チーム数 14チーム ・参加選手数 840人 	実績 <ul style="list-style-type: none"> ・参加チーム数 14チーム(13の自治会と地区及び三沢基地アメリカ海軍の全14チームが参加) ・参加選手数 600人
評 価	成果	44回目となる町民運動会は、町内の全地区が参加し、スポーツを通じて地域の結団と親睦を図ることができた。	
	課題等	近年は、参加者の減少により選手の確保が難しくなっているチームが多くなっている。現在の運動会形式で継続するとすれば、開催時間、競技種目の内容、競技数等を少しでも町民が参加しやすいように検討する必要がある。	

○ 総合的評価・・・・・・・・スポーツの振興

◆ **利用しやすいスポーツ施設の整備**としては、本町のスポーツ活動は、ひばり野公園とその関連施設及び倉石スポーツセンターを拠点としており、これらをあわせて年間に約110,800人が施設を利用していることから利用しやすい施設となっていることがうかがえる。さらにサッカー場の人工芝生化の実施により、県内でも有数の施設を町民が気軽に利用できる環境となった。一方で、施設の老朽化による維持管理費の増大という問題を抱えており、計画的な管理が必要となっている。

◆ **誰もが気軽に参加できるスポーツの環境づくり**としては、町民登山や歩こう会などの教育委員会が主催する事業は、初めての人や一人だけでもスポーツ推進委員の協力で楽しく参加できているが、町民が参加した経験を生かして自分たちでサークルを作って、登山やハイキングなどを楽しむような広がり結び付く方向にする必要がある。また、委託事業の生涯スポーツ振興事業は、高齢者も参加しやすいスポーツの種目や参加者の送迎についての検討をするなど、更なる参加者の増加を目指す必要がある。

◆ **町全体で取り組むスポーツ振興**としては、各方面のスポーツに取り組む町民に対して、様々な形で支援を行っているが、裾野の広がりにつなげていないものもあり、それぞれの事業について目的を踏まえた更なる検証が必要である。

〈分類4〉 地域が主体となるひとづくりの推進

地域コミュニティ内の連帯や、家庭・学校との連携を深め、子どもを取り巻く社会が一体となつての「ひとづくり」を目指します。

【施策】

- ・地域コミュニティの強化による地域教育力の向上・・・P21
- ・町民の社会参加機会の拡大・・・・・・・・・・P22
- 総括的評価・・・・・・・・・・P23

〈分類4〉 地域が主体となる人づくりの推進

【施策】

◇ 地域コミュニティの強化による地域教育力の向上

【主な事業】

(1) 放課後子ども教室推進事業

点 検	概 要	子どもたちの安全な居場所が少なくなっていることから、小学生が放課後や週末等に町立公民館を利用して地域住民の参画を得て、子どもたちにとって安全な活動拠点をつくり、スポーツや文化活動を行いながら地域住民との交流を通じて心豊かでたくましい子どもたちを育む環境を作るために「子どもあそびの広場」を開設する。広場は、毎週水曜日と金曜日の放課後及び概ね月1回土曜日に町立公民館等で開催する。		
	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもあそびの広場申込み児童数 30人 ・子どもあそびの広場開催 85回 ・放課後子どもプラン運営委員会開催 2回 	実 績	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもあそびの広場申込み児童数 36人 ・子どもあそびの広場開催 88回 ・放課後子どもプラン運営委員会開催 2回
評 価	成 果	放課後子ども教室は、年齢の異なる子どもたちが一緒にいろいろな体験をしたり、地域の方々の協力により料理を作ったり、また県のスクラム体験事業を利用して普段の活動ではできない体験を提供することができた。参加者の保護者からも好評を得ている。		
	課 題 等	放課後子ども教室に対する県補助金が年々減少しているため、町独自の企画で講師を依頼する等の活動ができなくなってきており、予算の確保が必要となっている。また、安全管理員等の新たな人材の確保が難しく、スタッフ一人に掛かる負担が大きくなっている。		

〈分類4〉 地域が主体となる人づくりの推進

【施策】

◇ 町民の社会参加機会の拡大

【主な事業】

(1) 成人式事業

点検	概要	二十歳になる新成人の町民を対象に式典と祝賀会を行う。 式典と祝賀会の企画運営は、新成人の人たちが自ら実行委員会を組織して行う。	
	計画	・新成人の参加率 70%	実績 ・新成人の参加率 72% ・新成人対象者239人中172人が参加
評価	成果	成人式は、新成人が実行委員会を組織して企画・運営することで、自らも郷土の一員だという意識の高揚を図った。	
	課題等	実行委員がなれていないことから式の企画は、例年どおりの内容となっている。また、祝賀会についても実行委員会だけの運営ができない状況なので、実行委員会の立ち上げの時期を早めて、話し合いの時間を多く取るようにする必要がある。	

(2) 文化賞・スポーツ賞事業

点検	概要	町の芸術文化の分野において、優れた創作活動を行っている個人または団体に対し「文化功労賞、文化賞、文化奨励賞」を、また町の体育・スポーツの振興発展への功績及びスポーツ大会において優秀な成績を収めた個人または団体に対し「スポーツ功労賞、スポーツ賞、スポーツ奨励賞」を授与する。	
	計画	・文化功労賞 2人 ・文化賞 25人 ・文化奨励賞 50人 ・スポーツ功労賞 2人 ・スポーツ賞 25人 ・スポーツ奨励賞 50人	実績 ・文化功労賞 1人 ・文化賞 5人 ・文化奨励賞 45人 ・スポーツ功労賞 1人 ・スポーツ賞 55人 ・スポーツ奨励賞 23人
評価	成果	文化賞・スポーツ賞は、毎年4月に開催する五戸町教育大会で表彰し、その内容が町の広報紙に掲載されることで、町民に広く活躍を知らせることができた。	
	課題等	賞の表彰は、翌年度4月の教育大会で行うため、高校3年生の場合は卒業していることから、表彰式に参加できない場合が多い。	

〈分類4〉 地域が主体となる人づくりの推進

○ 総括的評価・・・地域が主体となる人づくりの推進

- ◆ 地域コミュニティの強化による地域教育力の向上としては、放課後子ども教室は、国等の補助金が減額される中で、町の持ち出しを多くする予算の確保が必要である、
- ◆ 町民の社会参加機会の拡大としては、成人式は、新成人で組織する実行委員会の企画運営により実施しているが、行政が主導している現状なので実行委員会のメンバーに、もっと主体的に取り組むような意識を持ってもらう方法を検討する必要がある。

〈分類5〉 歴史・文化の継承

祖先から未来に伝える貴重な遺産である文化財や伝統文化を効果的に保存・継承していくとともに、その利活用の可能性を検討し、積極的な利用を図ります。

【施策】

- ・歴史・文化資源の把握・・・・・・・・・・・・・・・・P31
- ・歴史・文化資源の効果的な保存・継承・・・・・・・・P32
- 総括的評価・・・・・・・・・・・・・・・・P34

【施策】

◇ 歴史・文化資源の把握

【主な事業】

(1) 遺跡試掘調査対策事業

点 検	概 要	開発行為に伴い、埋蔵文化財包蔵地（遺跡）照会に対し、事業予定地が埋蔵文化財包蔵地であった場合は、町が試掘調査を行い、遺跡の概要を把握する。		
	計 画	・遺跡照会数 20件 ・試掘調査数 3件	実 績	・遺跡照会数 16件 ・試掘調査数 1件
評 価	成 果	遺跡発掘調査対策は、文化財保護法で求められている遺跡保存に最も重要な対策の1つであり、開発事業者へ周知することができた。		
	課 題 等	遺跡発掘調査対策として、無許可の開発が実施されないように文化財保護法の規定を周知徹底する必要がある。		

【施策】

◇ 歴史・文化資源の効果的な保存・継承

【主な事業】

(1) 伝統芸能継承活動事業

点検	概要	小学生に対し、伝統芸能に触れる機会をつくとともに、継承活動を進めていくために学校で行う伝承活動について、指導者への謝金や道具の修繕などの支援をする。	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・指導回数 65回 ・発表回数 4回 	実績 五戸小学校の児童が和太鼓（五戸太鼓）、神楽、えんぶりの各クラブが、通常は月2回程度、長期休暇等は月4回程度の活動を行っている。 <ul style="list-style-type: none"> ・指導回数 74回 ・発表回数 6回
評価	成果	伝統芸能継承活動は、小学生の郷土芸能への理解や後継者育成に寄与した。	
	課題等	継承活動への参加児童が減少しているため、学校と連携して参加児童数の増加に努める必要がある。	

(2) 県重宝「旧圓子家住宅」管理事業

点検	概要	青森県重宝に指定されている「旧圓子家住宅」の管理及び見学者への公開を行うことにより、文化財保護への理解を深め、五戸町の歴史を後世に伝えていく。	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・管理実施日数 30日 ・見学者数 100人 	実績 <ul style="list-style-type: none"> ・管理実施日数 30日 ・見学者数 89人
評価	成果	旧圓子家住宅の見学者数が計画を下回ったが、ほぼ例年並みの入館者数で町民の郷土史理解の深化に寄与した。	
	課題等	旧圓子家住宅は、今後修繕等が必要になることが予想されるため、適正な管理が求められる。	

(3) 町文化財管理事業

点 検	概 要	町所有の文化財の保存を行うとともに、未整理の埋蔵文化財の整理作業を行い、町内の歴史の把握を行う。	
	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財整理数 15箱 ・町有文化財環境整備回数 2回 	実 績 <ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財整理数 15箱 ・町有文化財環境整備回数 3回 (草刈)
評 価	成 果	町文化財の整理等により、町民及び県内外の関係者への五戸町の歴史の紹介に寄与した。	
	課 題 等	まだ未整理の文化財が多数あるため、今後も継続的に実施する必要がある。	

○ 総括的評価・・・歴史・文化の継承

- ◆ **歴史・文化資源の把握**としては、遺跡発掘調査対策で無許可の開発がなく、埋蔵文化財の保護が図られ、今後も無許可開発の防止のための周知徹底を継続していく必要がある。
- ◆ **歴史・文化資源の効果的な保存・継承**としては、小学生に対して行う伝統芸能継承活動は、町民から好感を持って評価されており、実施校をもっと増やす取り組みが必要である。また、旧圓子家住宅及び町文化財の管理については、町の歴史を継承するために文化財のPRに努め、町民の文化財に対する理解と関心の高まり大きくする必要がある。また、五戸町の文化財の展示公開施設の開設の要望が高まっているため、既存の町有施設の利用について検討する必要がある。

〈分類6〉 芸術文化の振興

町民が芸術文化に触れる機会を拡大し、興味・関心を育てるとともに、芸術文化に関する情報を必要に応じて得ることができるよう、情報収集と提供の体制づくりを進めます。

また、芸術文化に関する団体や活動を幅広く支援し、町民の自由な自己表現、自己実現の場を提供します。

【施策】

- ・芸術文化に親しむ機会の拡大・・・・・・・・・・・・・・・・P36
- ・芸術文化活動の支援・・・・・・・・・・・・・・・・P37
- 総括的評価・・・・・・・・・・・・・・・・P38

【施策】

◇ 芸術文化に親しむ機会の拡大

【主な事業】

(1) 産業と文化まつり事業

点検	概要	文化活動を行っている団体、個人が、発表の場として、「産業と文化まつり」の文化部門として公民館及び五戸ドームでの作品展示及び公民館でのステージ発表を行う。		
	計画	・参加団体数 45団体		・参加団体等数 44団体
評価	成果	文化まつりは、町民の日ごろの活動成果を発表できる貴重な機会であり、町民の文化活動に親しむ機会を提供できた。		
	課題等	文化まつりは、発表展示団体の固定化が見られ、一部の町民の活動になっている。文化協会等と連携して、参加団体の増加や、活動の活性化に努める必要がある。		

(2) 町民文化講演会事業

点検	概要	町立公民館で講演会や演奏会などを実施することで、町民が芸術文化の関心を高めるとともに豊かな感性を育む機会を提供する。		
	計画	・スプリングコンサートの実施 ・入場者数 400人	実績	・五戸町出身の小玉保節氏のピアノコンサートを開催 ・入場者数 380人
評価	成果	町民に生の演奏を聴く機会を提供することで、気軽に音楽を楽しんでもらうことができた。		
	課題等	町民からは、コンサートや著名人の講演の要望があるが、限られた予算内でできるだけ町民が楽しめる出演者を見つけることが重要である。		

【施策】

◇ 芸術文化活動の支援

【主な事業】

(1) 町文化協会支援事業

点 検	概 要	町文化協会の事務局を町立公民館で担当して、協会運営と文化団体の事業の推進を図るとともに、町の芸術文化団体相互の交流などの活動を支援するために、町文化協会へ町の助金を交付する。		
	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・文化協会加入団体数 50団体 ・産業と文化祭り参加数 20団体・個人 ・芸能発表会参加数 20団体・個人 ・町補助金の交付 	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">実 績</td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ・文化協会加入団体数 44団体 ・産業と文化祭り参加数 12団体・個人 ・芸能発表会参加数 9団体・個人 ・町補助金を交付 </td> </tr> </table>	実 績
実 績	<ul style="list-style-type: none"> ・文化協会加入団体数 44団体 ・産業と文化祭り参加数 12団体・個人 ・芸能発表会参加数 9団体・個人 ・町補助金を交付 			
評 価	成 果	補助金の交付及び事務局を担当することで、視察研修の実施や発表会への参加などができ、町の文化団体組織の活性化と芸術文化が図られた。		
	課 題 等	支援は、五戸町文化協会を対象とした事業であるが、文化協会に加入していないで文化・芸術活動をしている町民もいることから、町の芸術文化の振興のためには文化協会以外の活動に対してのアプローチも検討する必要がある。		

○ 総括的評価・・・・・・・・芸術文化の振興

◆ 芸術文化に親しむ機会の拡大及び芸術文化活動の支援としては、文化団体の活動発表の場と文化団体への補助金を交付しているが、活動が現状維持にとどまっていることから、文化団体の掘り起こしとそれらの団体への支援を検討する必要がある。

